令和５年度

富田小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

①基礎的・基本的内容の確実な定着のため，朝の活動や家庭学習の工夫

②自ら考え，学び合い高め合うための，発問や授業展開の工夫・タブレットの効果的な活用の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員				
安田　美香	校　長	元木　啓之	教　頭	月本　直樹
	教　務	湯口　泰子	特別支援	土居　由布子
	1年主任	安田　美香	2年主任	日浦　有紀子
	3年主任	八波田　美幸	4年主任	天野　友梨
	5年主任	美馬　武宜	6年主任	鴨頭　真弓

校長　元　木　啓　之

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等，様々な機会をとらえ，取組状況の把握を行う。

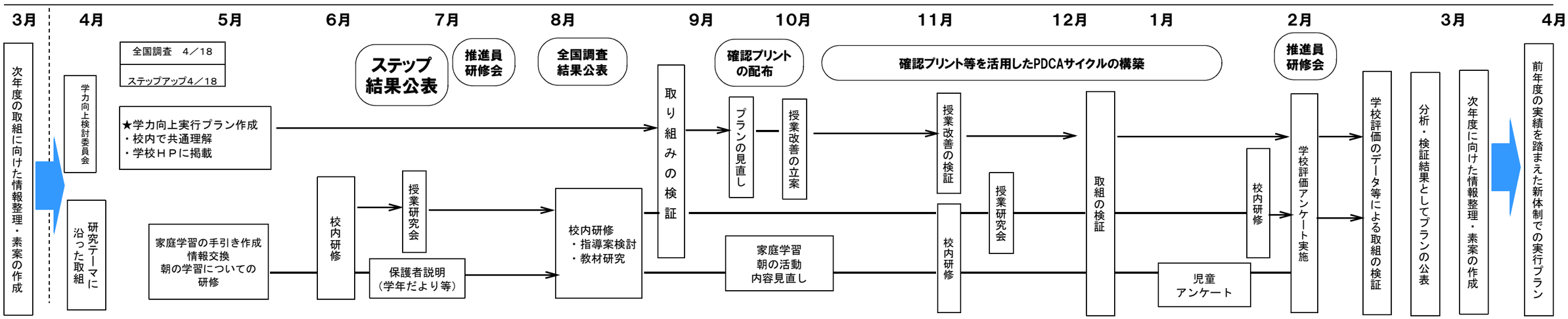
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能の習得に関して，まじめに取り組もうとする児童は多い。習った内容については8割程度の児童が習得していると考えられる。 ●全体的に語彙の少なさに課題がある。また，少人数ではあるが，基礎的・基本的内容の習得に遅れが目立つ児童がいる。	・学習の過程を通して習得した知識や技能を確実に身につけている。 ・身につけた知識や技能を，他の学習や生活の場面において活用することができる。 ・タブレットを効果的に活用できるようになる。	・朝の活動や家庭学習を効果的に利用し，基礎的・基本的な内容の習得を図る。 ・教材教具や板書，また発問などを工夫し，「わかる授業」を行う。 ・ふり返る機会を多く取り，学習してきたことを活用できる場面を設定する。	・学年末に，漢字・四則計算の確認を行い，習得できてないところを重点的に復習する。 ・アンケート等を通して，実態を把握して授業改善を図る。	・漢字・四則計算の確認テストで，正答率８割の児童が９０％を超えている。 ・1月実施のアンケートにおいて，「学校の勉強を理解できている」と答えた児童が８３％に達している。	・引き続き，基礎的・基本的な知識・技能をが定着するような取り組みを工夫する。 ・タブレットをさらに有効に活用できるようにする。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり，相手にわかりやすく伝えるという意識をもって表現しようとする児童が増えている。 ●文章を読みとる力が全体的に弱く，課題に合わせて必要な情報を取り入れることが苦手で，自分の考えをまとめたり説明したりすることに課題がある。	・友達の話をよく聞き，自分の考えをしっかりもち，根拠をもって自分の考えを書いたり伝えたりできる。	・ノート指導を充実させ，書く活動を活発に行い，自分の考えをもてるようにする。 ・ ICT を効果的に使い，話し合い活動を充実させて，自分の考えを分かりやすく伝える活動を積極的に行う。	・定期的に児童のノートやワークシート等を点検する。 ・こども新聞を活用し，初読の文章を読んだり，感想を発表したり書いたりする活動を取り入れる。	・全国学力調査の質問紙より，「国語の授業で，物語を読むときに，登場人物の性格や特徴，物語全体を具体的にイメージし，どのような表現で描かれているかに着目している。」と答えた児童が86%だった。また，「学級の友達と話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている。」と答えた児童も86%をこえている。	・文章から必要な情報を読み取り，適切に答える力を身につける。 ・様々な文章に触れることで，語彙を増やし，内容について話し合ったり，感想を書いたりして，多様な表現力を向上させる。 ・表現力について，個々の能力を伸ばすともに，集団としての力を向上させる方策を考える。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○どの学年もきまりを守り，落ち着いて学習に取り組んでいる。与えられた課題に対してまじめに取り組もうとする児童が多い。 ●家庭学習に主体的に取り組めていない児童がいる。また，難しい課題に対してあきらめてしまう児童も多い。	・各教科の学習や自主学習に積極的に取り組み，タブレットを使うことができる。 ・課題に対してあきらめずに最後まで取り組むことができる。	・学校全体での「家庭学習の手引き」，学年に応じた「自主学習の手引き」などを元に，家庭学習を支援し家庭との連携を図る。 ・クラスの実態や課題に合っためあての提示，授業内容の工夫を行う。	・学年だより等を通じて学習への取り組みや学年に応じた目標を伝え，家庭との連携を密にする。 ・ ICT を使って家庭で課題に取り組む機会を増やす。	・1月実施のアンケートにおいて，「学校の様子や学習内容などを，学年通信・懇談などでよく知らせ，分かりやすい」と答えた家庭が９０％である。 ・定期的にタブレットを家庭に持ち帰り，家庭学習に活用している。	・家庭学習の内容や出し方を見直すことで，主体的に家庭学習に取り組むことができるようにする。 ・課題に対して，最後まであきらめずに取り組む子どもを育てる。

令和5年度　学力向上ロードマップ